

# 目黒哲也 通信

市政について皆様の声を  
ぜひお聞かせください!

●発行人 目黒哲也

所属委員会・社会厚生委員会 委員長・議会運営委員会・議会広報編集特別委員会・都市計画審議会  
・新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員・魚沼地域特別養護老人ホーム組合議会議員

●連絡先 目黒哲也後援会事務所

〒949-6612 新潟県南魚沼市東泉田1076-1 TEL 025-773-6253  
携帯 090-4011-7563 E-mail kinseikan.tetsuya430623@gmail.com

目黒哲也  
公式ホームページ  
こちらから→



目黒哲也通信のバックナンバーを希望される方は、メールあるいは電話にてお気軽にご連絡ください

## 新年のご挨拶

令和4年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の南魚沼市議会議員選挙におきましては、多くの皆様からご支援を賜り、再び南魚沼市議会へと送り出して頂き、誠にありがとうございました。南魚沼市の更なる発展と福祉向上に向けて、一層の精進をして参ります。引き続き宜しく申し上げます。

世界を混沌と混沌に巻き込み、人々の価値観を大きく変えた2年間。この間に物理的な距離ばかりでなく、人と人の距離、心と心の距離が離れていってしまったように感じます。人の出会いや人との関係性を失ってしまうと、人生は貧しくなってしまうのではないのでしょうか。それは地域も同じで、明るさや豊かさを失ってしまうのではないのでしょうか。これからは、Beyondコロナの時代、人間性の回帰、本来の人間の姿への回帰が、重要ではないかと私は感じております。

いよいよBeyondコロナの時、全国の自治体がスタートラインから「よーいドン!」と一斉にリスタートを切る1年の幕開けです。出遅れないよう感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けて、関係各所と連携を取りながら、果敢に取り組みを進めて参ります。

皆様にとりまして、この1年が幸多き年となりますようお祈り申し上げます。



金誠館ラウンジにて

## 12月議会トピックス 事業創発拠点施設がJR六日町駅構内に誕生

### あなたの「やりたい」を実現させる拠点に

仕事をしたり、事業の相談をしたり、イベントを開催したり、ものづくりをしたり... あなたのさまざまな「やりたい」を実現させるために生まれた、みんなのための拠点です。

誰もが気軽にピットインできるネット環境が整った、雰囲気の良いコワーキングスペースが4月に誕生する予定です。

### 南魚沼にイノベーションを引き起こす 産業支援のプラットフォーム

新たな起業・創業、事業創発を目指す人材等が集い、地域産業の成長に繋がる強い経営者の育成、地域産業の新たな価値を生み出す人材の発掘や事業者・企業間の連携等を促進するために起業の拠点となる施設です。

### 建設資金は、松井利夫氏の寄付金

「自分の夢を育てるための投資だ。人生のまとめとして故郷に貢献したい」

技術者派遣事業のアルプス技研(横浜市)の創業者で新潟県南魚沼市出身の松井利夫さんが起業家育成や田園都市構想の推進に役立ててもらいたいと寄付して頂きました。松井さんは、旧六日町生まれ。六日町高校卒業後に上京し、工場勤務を経て1968年に独立。71年にアルプス技研を設立。現在は国内外に拠点があり、グループ会社も合わせて従業員約5,300人を擁します。松井さんは同社の最高顧問を務めています。

### 「常に世界規模の発想をして欲しい」

松井さん曰く「地方創生には人材育成が重要。若い人は、地方にいても国内で満足せず、常に世界規模の発想をして欲しい。そのために南魚沼市の産業振興や経済活性化のために、起業家育成に貢献したい。」そんな熱い思いがあります。

12月議会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。質問と答弁は以下の通りです。(一部抜粋)

南魚沼市議会 録音配信 検索

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧いただけます。



## 一般質問 道の駅「雪あかり」のリノベーション構想はあるのか

### 市長答弁 雪国らしさのある道の駅に拡充・拡張する時である

目黒 道の駅は道路利用者にとっての「休憩機能」や「情報発信機能」、そして地域住民にとっての「憩いの拠点機能」にもなっている。よって道路利用者と地域住民との交流を通じた地域振興への期待が持てる。今後の地域創生の拠点として描いている展開を伺う。

市長 道の駅は、地方創生の拠点として期待できる。コロナ禍で、しばらくマイカー旅行者が増える傾向にあり、またインターの乗り降りの自由化も加え、道の駅の時代を迎えつつあるのではないかと。よってこれからは、「賑わいの場」、「楽しめる場」、「観光の場」としての機能がこれまで

以上に求められてくるかもしれない。

そのためには、施設の拡充、または拡張などハード面の整備を考えていかなければならない段階に今、来ている。観光施設と位置づけられるならば、常に手を加えていく、常に新しいことを狙っていくということが大事だ。

雪国を具現化する、形に現わしていきける場所として、雪国らしさのある道の駅をこれから真剣に議論して、本気になって、皆で取り組んでいく段階に来ているのではなかろうか。加えて道の駅の全体を総合的に経営していくための組織が必要である。

目黒 2004年の中越地震において、被災地及びその周辺の道の駅が、避難所や災害復旧拠点、情報提供施設等として活用され、被災者の受入や災害復旧に大きく貢献をした。近年の頻発化、激甚化する自然災害に備え、休憩機能、情報発信機能、地域の交流機能のほかに、災害時の一時避難所や復旧支援の拠点として防災機能を備えた整備も合わせて進めていくべきかと考えるが、見解を伺う。

市長 ご意見の通り、防災機能を備えることは、非常に注目されている。

国も、道の駅に防災機能を強化していくという動きを今、強めている。

目黒 子育て応援施設や外国人観光案内所などの福祉、観光等に関する機能や広域的な復旧・復興活動の拠点とし、福祉・観光も道の駅に織り込んで、地方創生として推進していくと国は閣議決定をされている。

道の駅「雪あかり」はインターの近くに位置し、大動脈



である国道17号に面している。よって救援物資の基地機能や緊急車両の駐車拠点として、また警察、自衛隊などの復旧支援の拠点としても、非常にいい場所である。

昨冬、高速道路がストップし、長時間立ち往生した。雪で国道や高速道路がストップしたときにも災害復旧拠点になり得る。

加えて施設としても、**診療所があり広い室内空間**があることは、大きな武器である。地域の賑わいの拠点、子育て応援施設、外国人観光案内所、復旧・復興活動の拠点の方向に舵を切って、**整備を進めていくべきだ。**

**市長** 「雪あかり」は、洪水ハザードマップにおいては、残念ながら魚野川の氾濫における浸水想定が0.5メートル以上3メートル未満となっている。また令和元年10月の台風19号では、この上部にある岡地内、姥島地内において護岸が欠損する被害も発生している。

こういった状況を考慮すると、魚野川の増水時及び地震時の堤防機能の安全面から、現状のままでは積極的な災害時の拠点として活用は少し難しいという判断にならざるを得ない。

加えて緊急消防援助隊の応援拠点として湯沢町、魚沼市に6か所、実はすでに指定されている。

これらの現状からは、やはり今現在、災害拠点として、投資をして活用していくことが実際に有効なのかは、今すぐの判断はちょっとしかねる。

**目黒** 当市は登山者も多く、緊急の事態には、ドクターヘリ等々の離着陸の場所にも最適である。住民はもちろん観光客にも一時避難所があることは、**安心安全のPR**にもなる。検討できないのか。

**市長** 岐阜県大野町が同じ状況があったが、土地全体を2メートルかさ上げして排水ポンプ車とポンプ基地を置いて災害拠点にしたという例もある。

水害を除けば非常に大きな場所だと思う。だから拠点として選定をしなくとも、道の駅に集まってくるのは、必然ではないかと思う。さまざまな防災拠点に準じるような場所として位置付けて整備できるか検討したい。

## 一般質問

# 障がい者の住環境整備支援として、市独自の支援を制定すべき

## 市長答弁

どうしたらできるのか十分検討していきたい

**目黒** 豪雪地域である当市は、暮らしやすい高床式住宅が非常に多くなっている。しかし一方で、事故や病気等で歩けなくなったときには、介助やホームエレベーター等に頼らないと自宅に入れなくなってしまう。

ホームエレベーターの設置には、高額な設備投資が必要になる。ほかにはトイレや浴槽等の改造やスロープ付きの自動車も必要になってくる場合もあり、莫大な費用がかかってくるのが現実である。

**雪国だからこそ、障がい者が住み慣れた自宅で生活するための住環境への整備の支援を目的に、既存住宅の改造等に要する経費を補助する、市独自の制度を制定すべきと考えるが、市長の見解を伺う。**

**市長** 障がい者はもちろん、高齢者にとっても非常に重要な課題である。

南魚沼市は障がい者の住宅整備のため、現在、日常生活用具給付事業実施要項に基づいて、小規模な住宅改修や住宅改修を伴わない手すりやスロープの設置などについて給付を行っている。また段差の解消や傾斜の変更などに対する補助を所得に応じて実施している。

高齢者・障がい者向け住宅整備費補助事業実施要項に基づき、エレベーターやリフトなどの設置に関しても補助を現在行っており、収入などの要件があるが、障がい者や高齢者が居住する住宅へのリフトの設置などに対して活用できる。このほか「みんな住まいる改修補助金」制度もある。よって今ある補助制度の中で、**利用可能な制度を有効に活用してほしい。**

**目黒** 高床式住宅の階段を抱えて登る、抱えて降ろすのは、体の大きさや体重によっては、非常に厳しい状況である。

やはり車いすごと運べるホームエレベーターがあると非常にありがたいものである。車いすごと入るエレベーターは規模が大きなものになるので、本体価格は300万円～500万円弱くらい。そして設置するための工事費用が、さらに100万円～300万円くらいになる。

**現在の補助制度では補助額が小さく、設置したいけれどもハードルが高いのが現実である。**

雪国の地域は、ほかの自治体とは違うので、市独自の補助制度は必要ではないかと再度伺う。

**市長** 障がい者ばかりでなく、これからお年寄りがどんどん増えていくとも考えると、まさに何とかしなければならぬ非常に大きな問題であると捉えている。

**目黒** 県の補助金は、世帯収入が600万円以下が対象になる点がネックになっている。世帯で3人働いていると、恐らく超えてしまう。

障がい者を抱えている世帯は介助や介護、入院等が必要になるため、家族が仕事をしながら助け合って生活する。**世帯収入上限の検討が必要ではないか。**

**市長** 国や県に働きかけ、そして南魚沼市も人ごとではなくて、**どうしたらできるだろうかということも、もう一度よく考えてやっていきたい。**黙っていればそれで済む問題ではなくて、まさに非常に大きな課題だということふうに感じている。一般質問であるが、問題提起だと捉えている。

**目黒** 補助制度と共に金利補助や補償料補助などの特別融資制度も検討できないか。

**市長** いまほどの提言も含め、**十分検討を加えていきたい。**

# めぐろの道

## キーワード⑤ 道の駅「ゆきあかり」のリノベーション

道の駅「雪あかり」には、新型コロナウイルス拡大前には年間約43万人が訪れており、新潟県内41か所ある道の駅のうち、5位にランクしている。

市の観光客動向（図表）をみると、近年、買い物や食を求める都市型観光が大きく伸びてきている。

地元の特産品などの販売や郷土料理を提供している道の駅は、展開次第で今後、大きく集客が見込めることから地域創生の拠点となり得る。

関東圏からは新潟県の玄関口である。県内の観光案内所としてのゲートウェイとしての位置づけを戦略的にすべきである。また県内唯一のナショナルサイクルルートがあるので、自転車の道の駅としての積極的な展開も重要である。加えて魚野川を活かした川の駅として、やな場等を併設することも有効である。

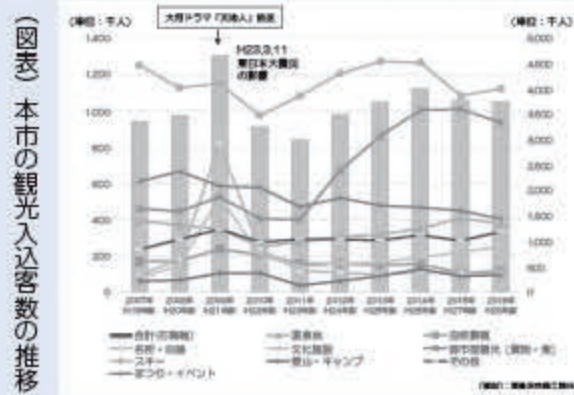
地域の賑わい拠点として、フードコートの充実や物産直売所、雪室商品等の充実不可欠である。フードコートと

直売所の一角に起業家育成を目的にチャレンジショップのスペースや障がい者雇用支援としてMSGなどのショップや展示販売のスペースは現在、求められていることであると考える。

ほかにも雪を活用した施設、冬のキャンプ・グランピングやスノーモービル等のアクティビティやふるさと納税・移住定住等の発信拠点として、行政のサテライトオフィスの設置も効果的であると考える。

さらに子育て応援施設や広域的な復旧・復興活動の拠点としての防災機能を強化することも必要である。

道の駅「雪あかり」は、地域創生が期待できる拠点である。



## キーワード⑥ 市独自の障がい者向け住宅整備補助制度の制定

豪雪地域である南魚沼市は高床式住宅が多い。しかし一方で事故や病気等で歩けなくなった時には、介助やホームエレベーター等に頼らないと自宅に入れなくなってしまう。

下表をみて分かるように、ホームエレベーターを設置するには、莫大な費用がかかる。

現在の制度は県の補助金が30～50万円である。少額のうち、県の補助金対象は世帯収入の上限が600万円という壁がある。家族が支え合い、助け合ってこそ障がい者を守っていけるのである。世帯に家族が集まると当然世帯収入が多くなり、補助対象から外れるという矛盾が生じている。

雪国だからこそ、愛の兜をかかげるまちだからこそ、愛のある市独自の施策が必要ではないか。

障がい者が住み慣れた自宅で生活するための住環境の整備への支援を目的に、既存住宅の改造等に要する経費を補助する制度を制定すべきである。

ホームエレベーターにかかる経費	
本体価格	300～450万円
設置工事費用	100～400万円
設置各種申請費用	10万円前後
法定点検	年間4～7万円
メンテナンス費用	年間4～6万円
固定資産税	年2万円位
電気料	年間7,000円位

## 坂戸山ラッセル 2021年坂戸山登山納め

目黒式ラッセルは、スノーシューやカンジキを履かない長靴のみで突撃します。スタートから膝の高さ、3合目から腰の高さ、7合目からは胸の高さ、登頂まで1時間半のラッセルとなりました。まだ雪が軽くて良かったです。



## 八海高校総合探求授業



コロナの影響で多くの実習の場が奪われてきた八海高校の生徒たちが半年間かけて企画した「模擬披露宴」すべて生徒たちの手作り企画。愛が溢れていました。



↑南魚沼市観光地づくり(DMO)キックオフ勉強会。パネラーとして登壇。天地人からの活動報告とこれからの観光地づくりを提言。  
←お酒の楽しみ方セミナーに参加しました。